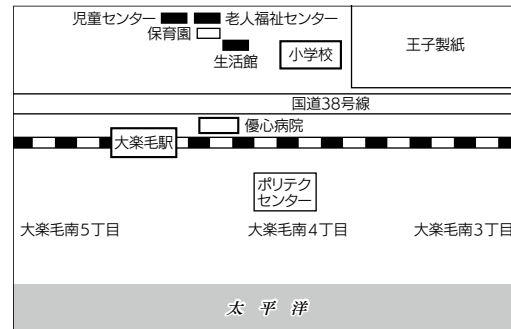


# 市長の姿勢をただし、いのちを守る施策と意見書を提案

## 大楽毛に、巨大津波から 命を守る避難施設の整備を

釧路港で8.3m。内閣府の津波高予想が発表されました。大楽毛では、町内会が、今ある児童センター、生活館、老人福祉センターを複合化し、避難施設として設備するよう要望しています。



村上和繁議員は、「複合施設は児童センターも入ることから小学校の近くに」「津波避難困難地域の大楽毛南地域には、それとは別の避難施設の建設を」と、強く求めました。

## 経営破綻による地域医療の崩壊を防ぎ、 住民のいのちを守る「意見書」を提出

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、道内の医療機関は大幅な減収が続き経営は深刻な事態を迎えています。「次なる波」を前に、医療崩壊を回避し釧路住民のいのちを守るために医療機関への支援が急がれています。そこで、6月議会に「国に対して医療機関への減収補填を求める」意見書を提出しました。(反対多数で否決)

### 国に対して医療機関への減収補填を求める意見書の賛否

共産党	市民連合	自民党	公明党	新創クラブ	釧路に新しい風
○	○	×	×	×	×

○は賛成 ×は反対

このチラシは政務活動費で作成しています

## 売電先が「不透明」な火力発電所 12億円にのぼる市民・国民の税金は？

本年11月から本格稼働する釧路火力発電所ですが、発電した電気を売る先(売電先)が未だに見つかからないのです。当初はエフパワーという新電力会社が電気を買い、それを市内の事業所に販売し「地消」する計画でした。しかし、エフパワーは北海道から基本的に撤退することから、火発から電気を購入する契約はなくなりました。釧路コールマインの石炭全

量を使って発電しても、消費する所がはつきりしていません。西村雅人議員の追及に対し市は「民間対民間の契約状況については詳しくは把握していない」という答弁。石炭の「地産」という名目で、新基金から8億、市の貸付金4億もの血税がコールマインにつき込まれたばかりです。「地産」の面でも「地消」の面でも先ゆきが不透明になっています。

2020年6月10日から19日までの会期中で釧路市議会六月議会が開催されました。新型コロナウイルス感染症とそれに伴う自粛要請のもと、多くの市民が苦しんでいます。市長の姿勢を問いただし、市民のいのちを守る政治を求めて日本共産党市議団は論戦等に挑みました。その一部をご紹介します。



## 釧路市議団だより

発行：日本共産党議員団 <http://jcpsigi.com/>  
釧路市役所本庁舎2階 TEL・FAX 0154-23-5212

2020年  
7月



日本共産党  
釧路市議団 HP

# 道内「第3波」に備えた体制と支援の充実を求めて

## 市長に要望書を提出

6月18日

新型コロナウイルス感染症の「第3波」に備え、  
くらし・雇用・営業への支援を求める要望書(骨子)

### 1 第3波に向けた医療・介護体制

- ・PCR 検査センターを設置すること
- ・感染症病床の増床を要請すること

### 2 市民のくらしを守る施策の検討・具体化

- ・家事水道料金と下水道使用料の基本料金を免除すること
- ・全住民への商品券の配布を行うこと

### 3 雇用・営業・仕事を守る支援策の強化

- ・持続化給付金等の対象外となった事業者に、支援金を支給すること
- ・失業や内定取り消しの新卒者等を、市のフルタイムの会計年度任用職員で1年間雇用すること

### 4 子ども支援・教育にかかわる施策の充実

- ・特別定額給付金の基準日以降に生まれた新生児に、市独自の10万円の給付をすること
- ・学校給食費の免除をすること 他

## 「市長は 何をしているの?」

最近こうした声がよく聞かれます。他の自治体では首長が先頭になって、独自の施策をやって住民を守っているのに、釧路市の対策は国の制度の枠内のものがほとんどです。蝦名市長のよくいう「自助努力」ではもう限界です。今こそ公助、福祉の精神を発揮してもらいたいものです。



村上議員 梅津議員 工藤議員 西村議員



六月議会の閉会の前日、釧路市議団は市長に要望書を提出。ひとまず落ち着いている今だからこそ、第三波に備えた体制と支援の充実を求めてそれぞれの議員から具体的な要望を説明しました。この日は蝦名市長の代理で伴副市長とこども保健部長・学校教育部長・総合政策部長も同席し対応。その主なやりとりと、要望書の骨子をご紹介します。

**村上議員** 「ぜひ、国の二次補正予算を受けて市独自の支援策を」  
副市長 「国、道、市とそれぞれやるべき役割分担がある」  
**梅津議員** 「民間病院の減収補填を検討すべき」  
副市長 「なかなか国のようにやるのは難しい」  
**工藤議員** 「非接触型体温計を学校に導入すべきです」  
部長 「市立病院から借りているが、それでは足りないので今後購入したい」

**西村議員** 「PCR検査センターの設置を強く求めます」  
副市長 「保健所、医師会等と会合を持つので、話し合っていきたい」